

まちのアルバム

平家ゆがりの地・野洲

平宗盛公とその時代背景をテーマとする「平家フォーラム～Ifを奏でる平家物語～」を開催しました。

「妓王寺」「祇王井川」「平家終焉の地」など平家との関わりが色濃く残る野洲市。平曲（平家琵琶）の弾き語りや平家の歴史解説、また後世に語り継ぐための取り組み紹介が行われ、平家への知識を深める一日となりました。

パネルディスカッションでは「平氏が源氏に勝つにはどうしたらよかったのか？」など《もしも》をテーマに想像膨らむ意見交換が行われました。

源平の歴史に興味があるという参加者から「史料を詳しく解説され、初めて聞くことがありおもしろかった。もっと知りたくなった。」と感想をいただきました。



▼ 10月10日 シライシアター野洲



▲パネルディスカッション

（左から）平家の歴史について意見を交わす荒尾努さん（平曲弾き語り奏者）、川合康さん（大阪大学大学院人文学研究科教授）、安藤正雄さん（大篠原宗盛公胴塚保存会副会長）

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

218

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

西林寺の阿弥陀如来立像 —鎌倉時代の仏師快慶一派の 作風を思わせる仏像—

野洲・守山の宗教文化をテーマにした企画展で注目いただきたい作品の一つは、野洲市三上の西林寺の本尊である阿弥陀如来立像です。

この仏像は、理知的な表情や「衣文」とよばれる衣装のシワ・ヒダの表現などから、鎌倉時代に活躍した仏師（仏像をつくる職人）、快慶一派の作であることがわかりました。

この成果は、企画展の開催に向けて、当館・滋賀県立琵琶湖文化館・守山市による合同調査によって、明らかとなりました。そのため、本像の出品は今回が初めてとなります。

企画展では、その他にも野洲・守山の宗教文化を感じられる作品を紹介しています。ぜひご観覧いただき、同

地に華開いた宗教文化の一端を感じ取っていただければ幸いです。

（博物館学芸員 齊藤 慶一）



阿弥陀如来立像 一部（西林寺蔵）

■滋賀県立琵琶湖文化館・野洲市歴史民俗博物館・守山市地域連携企画展
「近江湖南に華開く宗教文化 —野洲・守山の神と仏—」
開催中～11月27日(日)

※会期中の休館日：月曜日、11月4日(金)・24日(木)

※市民は入館無料

（運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。）

※関西文化の日（11月19日(土)・20日(日)）は全ての来館者入館無料

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。